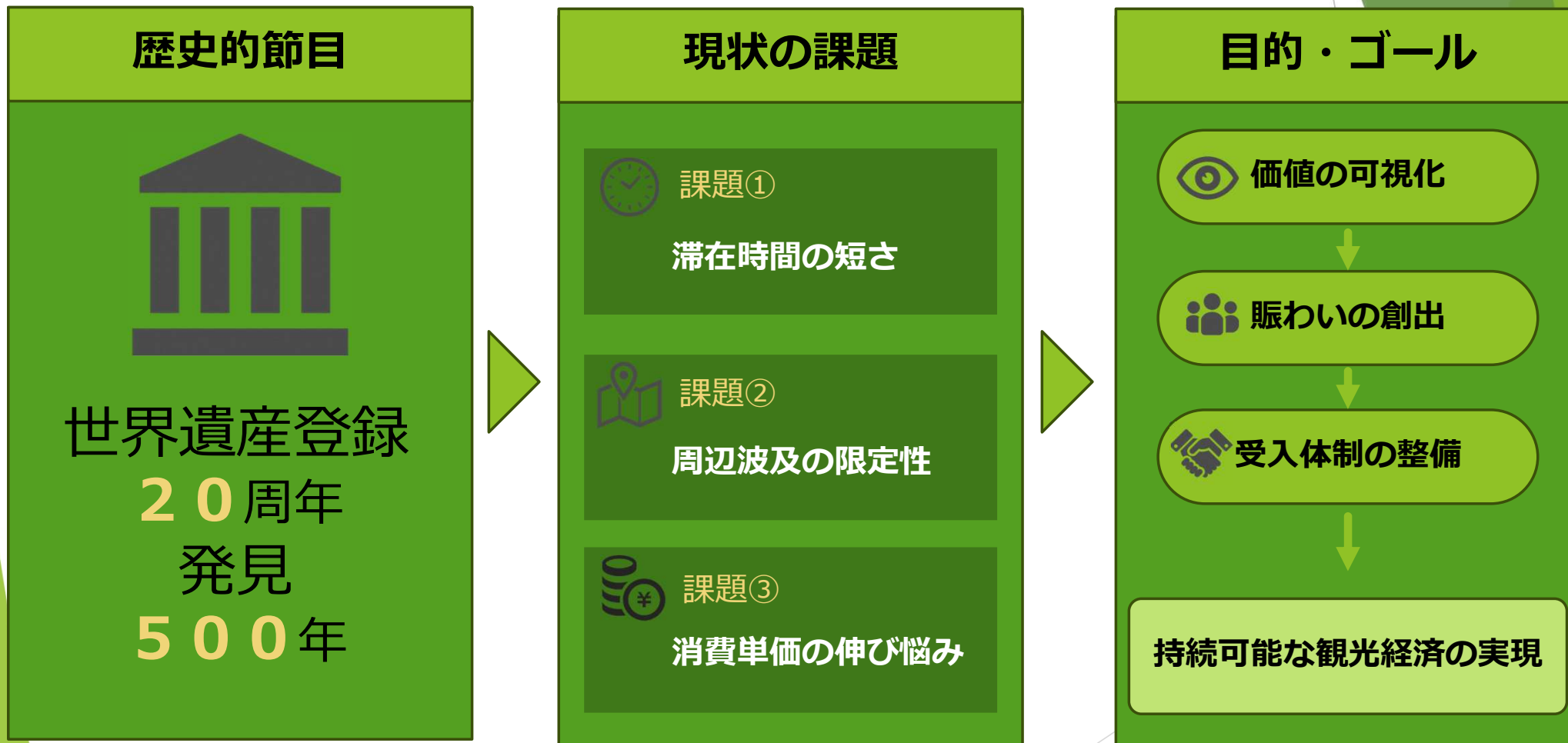


石見銀山世界遺産登録 20周年・発見500年記念事業

～観光分野における戦略策定～
(おもてなし・イベント班、誘客・広報班)

1. 戦略策定の趣旨

世界遺産登録20周年・発見500年の節目を機に、滞在時間の短さや消費単価の伸び悩みといった課題を『価値の可視化』や『受入体制整備』などを通じて解決し、持続可能な観光経済の実現を目指します。



2.大田市の観光分野における課題について

課題①



滞在時間・消費の 伸び悩み

体験コンテンツ不足により、観光客が短時間滞在に留まり、消費が伸び悩む傾向にある。

課題②



周遊観光の不足

市内周辺地域の拠点間周遊が課題。地域全体への波及を生む「面的観光」が求められる。

課題③



価値発信・ 広域誘客の不足

歴史的価値の伝達が不十分であり、都市圏を含めた広域誘客の機運醸成が不足している。

3. 将来的な観光分野の【目指す姿】について

① 石見銀山遺跡とその文化的景観の魅力(歴史・自然・物語等)をつなぎ・発信し「可視化」する

② 地域から生まれる文化的交流による賑わいの創出

③ 地域で多様な観光客の受入れ体制整備

④ 地域で持続的な観光経済を設計する

⑤ 石見銀山遺跡とその文化的景観エリア(大森/温泉津/仁摩/三瓶)等の地域拠点が連携した面的観光の実施

これら5項目の実現に向け、記念事業終了後も取組が続いていくための“土台づくり”としての「第一歩」が踏み出せている状態となることが本記念事業のゴールとなる

4.短期目標について（令和9年度達成目標）

① 地域主体のコンテンツ開発

・次点項目：地域間連携ネットワークの始動

※【目指す姿】①「石見銀山遺跡とその文化的景観の魅力(歴史・自然・物語等)をつなぎ・発信し「可視化」する」

②「地域から生まれる文化的交流による賑わいの創出」

③「地域で多様な観光客の受入れ体制整備」

④「地域で持続的な観光経済を設計する」

⑤「石見銀山遺跡とその文化的景観エリア(大森/温泉津/仁摩/三瓶)等の地域拠点が連携した面的観光の実施」に関連

② 戦略的な価値発信と誘客

※【目指す姿】①「石見銀山遺跡とその文化的景観の魅力(歴史・自然・物語等)をつなぎ・発信し「可視化」する」

②「地域から生まれる文化的交流による賑わいの創出」

⑤「石見銀山遺跡とその文化的景観エリア(大森/温泉津/仁摩/三瓶)等の地域拠点が連携した面的観光の実施」に関連

5.重点ターゲットについて

①

歴史・文化志向の個人旅行者

石見銀山エリアの世界遺産としての価値に関心を持つ観光客

②

中国地方をはじめとする広域観光周遊客

中国地方の主要観光地をはじめ、都市圏等から中国地域を訪れる観光客を対象に、世界遺産関連地域への来訪を促進する
特に観光PRやイベントを通じ、新たな来訪機会の創出を図る

③

体験型観光志向層

地域体験や自然体験を求める観光客

6.戦略の推進方法について

★本戦略の推進にあたっては、観光関連事業者や地域団体等の主体的な取組を基本とし、おもてなし・イベント班及び誘客・広報班は「補助金の交付」を通じてその取組を支援する。

【補助制度の種類】

① 体験コンテンツ造成型

② 誘客・広報推進型

【補助率】

- ・50万円まで定額補助
- ・定額補助超過分は4/5(80%)補助
- ・補助上限200万円

7. 「目指す姿」実現までのスケジュールについて

令和8年5月
～2月末

令和9年度

令和10～14年度

令和15～18年度

令和19年度以降

補助事業
公募開始
(2ヶ月程度)
※事前着手含む
～
補助事業
実施期間

【目標達成期】
(短期)
記念事業
当該年度

【目標達成期】
(中期)

【目標達成期】
(長期)

【目標達成期】
(目指す姿)

8. 主要目標について

【おもてなし・イベント班】 指標：宿泊客数

区分	令和6年度（実績）	令和7年度（実績）	令和8年度（指標）	令和9年度（指標）
宿泊客数	111,206人	112,118人	146,000人	148,500人
前年比	—	約1%UP	約30%UP	約1%UP
備考		目標値：128,603人 実績-目標:▲16,485人	指標：大田市新観光 振興計画より抜粋 （前年度比目標値より約13%UP）	（前年度比目標値より約1%UP） ※年間2,500人増

【誘客・広報班】 指標：入込客数

区分	令和6年度（実績）	令和7年度（実績）	令和8年度（指標）	令和9年度（指標）
入込客数	1,310,518人	1,327,787人	1,405,000人	1,453,000人
前年比	—	約1%UP	約6%UP	約3%UP
備考		目標値：1,358,000人 実績-目標:▲30,213人	（前年度比目標値より約3%UP）	（前年度比目標値より約3%UP）

9.まとめ（事業者の皆様にご期待すること）

① 地域の「価値」を磨き、その魅力を多角的に「発信」してください

磨く：地域の歴史・自然・物語を活かした、満足度の高い「体験コンテンツ」を開発してください

発信：世界遺産の歴史的価値や文化的魅力、そして自分たちが地域に持つ「誇り(シビックプライド)」を伝えてください

狙い：滞在時間の短さや消費単価の低迷という課題に対し、石見銀山の価値を「可視化」して届けるためです

② 「自分のエリア」を超えて、他の地域と繋がってください

動く：各拠点(大森、温泉津、仁摩、三瓶等)が個別に活動するのではなく互いに連携した活動を展開してください

繋ぐ：地域間を繋ぐ周遊コースの作成や共同イベントなどを実施し、「面的観光」を形にしてください

狙い：「点」ではなく「面」で観光客を受け入れ、大田市全域に経済効果を広げるためです

③ 補助金を活用し、「持続可能な土台」を築いてください

挑む：補助制度を活用し、事業者が自ら考えた取組(体験・サービス向上・情報発信等)を主体的に実行する「仕組み」を動かしてください

残す：補助金を「消費」して終わるのではなく、事業終了後も経済が循環し続ける「土台」を地域主体で築いてください

狙い：次世代へ価値を繋ぎ、持続可能な観光経済を自分たちの手で設計するためです

記念事業を「点」で終わらせず、次なる500年に向けた持続可能な観光経済へと繋げていくことを目指します